

# 慈雲

35号

2015/3

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



遙向耆闍崛山

為佛作礼

而作是言

## 【『観経』の言葉】

はるかに耆闍崛山ぎしゃくつせんに向かいて、仏の為ために礼なを作して、この言を作さく、

韋提希夫人は、自らの息子、阿闍世によって宮殿の奥深くに幽閉されました。そして夫である頻婆娑羅びんばしやらの身命いのちや自身のことについて憂え憔悴しています。そこで思い出したのが釈尊です。夫人は幽閉されているのでお釈迦さまのもとへ行くことはできません。しかししただ「単心」(ひたすらな心)さえあればどれだけ離れていてもその想いはとどくのであると善導大師はおっしゃっています。釈尊にすがりたいという夫人の願いが、遠く離れた耆闍崛山にいるお釈迦さまの心に届くのです。

今回は

不断煩惱得涅槃  
ふだんぼんのうとくねはん

煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり。

の一句を学びます。

「煩い悩みを断たなくても、この上ないさとりを得ることができます」という意味です。

「煩惱」は惑とも訳され、心を悩まし身を煩わす心のはたらきのことです。これは人間には必ず備わっているものであり、代表的なものは貪欲・瞋恚・愚痴の三つです。これらは煩惱の中でも最も強く激しいものなので三毒といわれます。貪欲は、むさぼりです。自分の心に適うものに対してどこまでも貪著する心のはたらきです。瞋恚は怒り、憎しみです。先ほどと反対に自分の心に適わないものに対してどこまでも憎しみをかりを持つ心のはたらきです。愚痴は無明ともいい、私たちはよく「グチを言うな」などと言いますが、本来の意味は、真実に暗いという意味です。ですから三毒の中でもその

根本になるものです。以上煩惱についてみてきましたが、特別のことではありません。私たちが日々やっていることなのです。たとえばついさっきまでよく言うことを聞いていた子供はかわいいですが（貪欲）、次の瞬間には憎らしい口を利いたのでとたんにムカツ腹を立てます（瞋恚）。その根本の原因は道理や物事があるがままに見ることができないためなのです（愚痴）。他人事ではなく私たち一人ひとりが煩惱の代表選手であるといえます。「涅槃」はこれら煩惱による縛りから完全に開放された境地のことであり、滅度とか寂滅などと訳されます。煩惱を火に喩え、その火が消えた瞬間の静けさのような状態であるといわれています。つまりさとりのことです。煩惱が無くなった状態をいいます。

そうするとこの正信偈の文句は矛盾しているようではありませんか。煩惱を絶つことなくして涅槃を得るというのですから理屈に合いません。ここをどう受け取ればよいのでしょうか。

実は、煩惱を煩惱と知ることが大切なのです。

私たちは、今まで見てきたように日夜

煩惱に明け暮れしているながら、それを煩惱と知らずに過ごしているのです。ですからその煩惱によって行動を起し、またその起した行いによって自ら苦しみを受けることになるのです。この流れを「惑・業・苦」といいます。阿弥陀さまの本願は、私たち衆生に煩惱を失くせとおっしゃっているではありません。そうではなく、生きていくにはたとえ迷いの根源とわかっていてもそれから離れることができない衆生を憐れんで、そういう衆生を助けようという本願です。本願を光で喩え、我々の煩惱を闇で喩えます。闇の中にいる者はそこが闇だとはわかりません。光が差し込んで初めて自分の居るところが闇だと気付くのです。と同時に闇を照らし出した光にも気付くのです。ですから、煩惱を断つのではなく私の心こそが煩惱だったと知る時がそのまま煩惱を超えた寂かな境地に触れているといえるでしょう。だからといって煩惱を振りまき放題にしてよいというわけではありません。思い出してください、本願は大悲の本願であります。煩惱いっばいの私たちのことを大悲してくださっていることを。

【雜華雲】

最近読んだ本で心に残った文章を紹介したいと思います。

たらちねの骨の白さや梅一輪

昨年十月に亡くなられたご門徒のTさんは俳句に秀でた方でした。

敬愛する松尾芭蕉の跡を追慕して山形の立石寺——ここは、閑かさや岩にしみ入る蝉の声の句が詠まれたところですから訪ねた夜、蔵王の温泉にて息を引き取られました。

後日、奥様から『竹一本』という句集を頂戴しました。

その中でいくつか響いた句がありました。この句もその一つです。この句に關してはTさん自身がその背景を書いておられますのでここにその一部を転載させていただきます。

○たらちね「垂乳根」は親・母にかかる枕詞

※

N先生の母堂が亡くなられたのは、先生が七十歳近い頃だった。母堂は長男と同居されていて、葬儀は長野県でとり行われた。その二、三ヶ月後先生とお会いする機会があった。「大きな声では言えないんだけど」と囁かれた。兄にも断って、母上の骨を少し持ち帰ったそうだ。

乳鉢で碎き、絵具に混ぜて絵を描きたいとのこと。古い中国にもそうした記録はあるそうだ。親子の絆というのは色々なパターンがある。特に母と子というのは独特のものがある。母を早く亡くした私にはよくわからないが、歳はとつても母への深い思いは募るばかりと思える。N先生は一体何を描こうとされたのだろう。花鳥画の名手だから、まず花とみるのが妥当ではないだろうか。あるいは鳥の白い羽根だろうか。平凡だが私は白梅ではないかと思つた。先生は凜とした空気を、画面に漂わせる技術をお持ちだ。古木に咲き初める白梅が似つかわしくないだろうか。N先生が、実際に絵具として描かれたのかどうかはわからない。今年の一月、立春を待たずに先生急逝の報がもたらされた。

(抄)

【易行風】

最近読んだ本に場所の話が書いてありました。それぞれの場所毎に法(ルール)があり、その法の決め方によって場所の性質が決まってくる。

そして、私たちが今居る場所は経済や数学を元に法が決められていて、その法は、賢・善・精進を求めている。愚かさから賢い方向へ、悪行をやめ善行を、精進すなわち努力を求める。

これらの事が正しいとされている場所であると話が展開し、その賢・善・精進がだんだん出来なくなつてきて、その場所に居づらくなつてくると書かれています。

では、どうすれば良いか？

本には「これの答えはなさそうだ。」と書かれていて無責任な感じがしますが、この先、本には自信と言う事が書かれ、その自信について教えを説いていかれます。結果、賢・善・精進の問題に対する直接的な答えは示されていませんが、念仏を信じると言う事の大切さが書かれています。

この本の内容は大切な事ですが、自信の話は別の機会にして、場所の話に戻ります。

私には昔からそうだなと思つている事があります。それは「現実と理想の間に真実がある。」と言う事です。

この事がこの本を読んで場所の問題が出てきたとき一番に思つた事でした。賢を求めている理想と愚である現実、善を求めている理想と悪である現実、精進を求めている理想と怠ける現実。しかし、このように当てはめると違つて言う事ははつきりします。この当てはめ方は現時点を現実とし、理想に向かつて行く当てはめ方で、現実が良くない物となつてしまいます。

そうではなくて、現実とは流れの落ち着いた場所、バランスのとれた場所ではないでしょうか。この現実と理想は一人ひとり異なっていて、自分以外の人が理想に向けて動くと、それに影響され自身の現実が変わるのではないのでしょうか。そうすると自分自身の理想の場所は変わらなくても、理想の有る方向が変わってきて、自分はそちらへ動くこととする。また、それに連鎖され自分以外の人の現実も変わる。この繰り返しが大勢の人々の間で起こる。だから、現実と理想の間に真実があるのではないのでしょうか。人は良くも悪くも理想を求めます。これは悪いとは思いません。しかし、自分が理想を追い求めると、自分以外に影響を与える事を自覚し、少しでも自分以外を思いやり、考える事も大切ではないでしょうか。

釋風航

【お彼岸のお知らせ】

三月二十一日（土・祝）  
春の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話 伊藤正善氏

（彦根還相寺）

四時 慈雲会総会

総会終了後 お齋

【慈雲会総会のお知らせ】

三月二十一日（土・祝）彼岸会法話終了後

議題 平成二十六年 行事・事業報告

平成二十六年 決算報告

平成二十七年 事業計画説明

平成二十七年 予算説明

その他

【お磨きのお知らせ】

春の彼岸会に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

三月十八日（水）午前九時より

【編集後記】

春の声が聞こえて来ますが、少し寒いこの頃、皆様如何お過ごしでしょうか。今年最初の慈雲をお届けします。

仏具のお磨きに参加されています御門徒さんからメッセージを頂きましたので、その時の写真と共に紹介させていただきます。



一つ一つに真心を込めて磨こうと思いを馳せています。今も、これかも、微力では御座いですが：

どうぞ一度ご参加下さい。

お願い

平成二十七年度の年会費五千円よろしくお納めください。皆様が運営する皆様のお寺を目指し、またお寺を通じて広く社会に貢献したいと存じます。振り替え用紙を同封致しますが、既にお納め下さっている方はご容赦下さい。

瑞蓮寺のホームページができました。  
<http://www.zuirrenji.net/>